

高尾山報

祝 日本遺産認定 れいきまんさん たかおさん
霊気満山 高尾山
八王子市が都内で初めて認定されました ~人々の祈りが続く祭都物語~

令和2年 **12**月号

紅葉濃き 日本遺産の 高尾山



法の水茎 (102)
 高橋秀城

唐錦
 枝にひとむら

残れるは
 秋の形見を

絶たぬなりけり

（拾遺集）僧正遍昭
 （唐織りの錦のようにか
 しい紅葉が、枝にひとか
 たまり残っているのは、
 秋の形見を絶やさないと
 いうことであつたよ）
 冬枯れの小道を歩いて
 いると、色づいた葉っぱ
 が枝先に残っているのを
 目にします。散りゆく時
 機を逸してしまったので
 しょうか、それはまるで
 秋との別れを諦めきれず
 に揺れている心のように
 す。夏が近づけば「春の
 名残」を求めてしまうよ
 うに、真冬の訪れを前に
 して「秋の名残」を探し
 てしまうのでしょうか。見
 つける度に、足早に過ぎ
 去ってしまった秋の記憶

が蘇ります。
 十二月に入ると、二十
 四節氣の「大雪」を迎え
 ます（今年は十一月七
 日）。その名の通り、雪
 が激しく降り積もる頃と
 なり、寒さもいつそう厳
 しくなってきました。次の
 節氣となる「冬至」（今
 年は二十一日）までの二
 週間は、昼間の長さもど
 んどん短くなつていきま
 す。

毎年十二月八日には、
 お寺で「成道会」という
 行事が営まれます。「成
 道」とは、「道を完成し、
 悟りを開いて仏と成る」
 ことで、「成仏」と同じ
 意味です。この日全国の
 寺々では、お釈迦様が悟
 りを開いて成仏されたこ
 とを記念して「成道会」
 を執り行います。この「成
 道会」は、お釈迦様が
 誕生された四月八日の

「灌仏会」（降誕会・花
 祭）と、お釈迦様が入滅
 （亡くなること）された
 二月十五日の涅槃会（常
 楽会）と並んで、とても
 大切な法会の一つとなつて
 います。
 「八相成道」という仏
 教語があります。お釈迦
 様の八十一年間にわたる御
 生涯を、八種の相に分け
 たものです。それは、①
 降兜率（兜率天から下つ
 たこと）、②託胎（母胎に
 入ったこと）、③降誕（母
 胎から出生したこと）、④
 出家（俗世を捨てて仏道修
 行に入ったこと）、⑤降魔
 （菩提樹下で悪魔を降伏
 させたこと）、⑥成道（悟
 りを得たこと）、⑦転法輪
 （説法・教化したこと）、
 ⑧入滅（涅槃（悟り）に
 入ったこと）の八大事で、
 中でも「成道」が中心と
 なつていきます。

お釈迦様は、三十五
 歳の時に悟りを開かれま
 した。それは、菩提樹の
 下での禪定（瞑想）の修
 行中に、悪魔の誘いを退
 けて得られたものでした。

その時の様子は『過去
 現在因果経』といった仏伝
 （釈尊の伝記）の書物に
 語られていますが、日本
 の『今昔物語集』にも次
 のように見ることができ
 ます。
 今となつては昔のこと。
 お釈迦様は菩提樹の下で
 瞑想し、草の上で結跏趺
 坐（両足を組んで座ること）
 をしていました。そ
 して「もし悟りを開かな
 かったら、この座を立つ
 ことはないと誓うので
 した。」

しかし、魔王は心を抑
 えることができませんで
 した。三人の娘を使つて
 色仕掛けを試みたり、自
 らが赴いて悪の道に引き
 込もうと誘惑したりしま
 したが、お釈迦様は全く
 誘いに乗りません。
 そこで魔王は、数多の
 に語ります。「もし彼が
 成道してしまつたら、私
 よりも高みに到達してし
 まう。なんとか邪魔をし
 たい」と。息子は「どう
 か悪を作り咎（過ち）
 を受けるようなことは止
 めてください」と諫める
 のでした。



高尾山では有喜苑の仏舎利塔で成道会が行われる

折り折りの記 (136)

波多野 重雄

年の瀬に富士遙拝の高尾山

高尾山の北見晴は三百六十度の展望ではないが、西の彼方に見晴かす富士の高嶺を仰ぎ見る。この眺望こそ信仰の地としての高尾山にとって大きな意味を語っている。

江戸後期の『八王子名勝志』に「富士参詣の間道なり」と記されたように高尾の尾根筋は、城山、小仏峠を経て富士山へ向かう道であった。高尾山を祈禱所としていた北条氏はこの地を保護し、小仏峠にあった関所名も「富士関」と呼ばれていた。元旦のご米光を今年も拝む。高尾山薬王院の大山院下のご尊顔を拝し今年最後の高尾登山とした。（高尾山健康登山の会長）

百観音霊場巡礼 (28)

厚木市 荒井 一雄

冬遊 巖殿山

任職夫人に教はりし
 参詣作法いま教へけり

女子学生四五者

冬、巖殿山(正法寺)に遊ぶ

紅顔体操院内雅

大東文化大の可愛い女子アスリートが
 四五人、境内にて優雅で上品に体操
 している。彼女らに観音様の「真言やお
 参りの仕方を丁寧に教えたら、真剣に熱
 心に合掌し唱えた。「うむお参りなされ
 ました。これで君たちはさきほど良縁に恵ま
 れますよ」と言ったら、キアキア騒ぎ
 ながらキャンバスへと帰って行った...

参拝礼節教恭敬

大東文化大の可愛い女子アスリートが
 四五人、境内にて優雅で上品に体操
 している。彼女らに観音様の「真言やお
 参りの仕方を丁寧に教えたら、真剣に熱
 心に合掌し唱えた。「うむお参りなされ
 ました。これで君たちはさきほど良縁に恵ま
 れますよ」と言ったら、キアキア騒ぎ
 ながらキャンバスへと帰って行った...

大笑欣喜帰校舎

大東文化大の可愛い女子アスリートが
 四五人、境内にて優雅で上品に体操
 している。彼女らに観音様の「真言やお
 参りの仕方を丁寧に教えたら、真剣に熱
 心に合掌し唱えた。「うむお参りなされ
 ました。これで君たちはさきほど良縁に恵ま
 れますよ」と言ったら、キアキア騒ぎ
 ながらキャンバスへと帰って行った...

その時、空中に現れた
 神が言い放ちました。「魔
 衆よ、毒心を起こし怨心
 を成すことなかれ」と。
 魔はこの言葉を聞いて恥
 じ、驕りや妬みの心を止
 めて、もとの天宮へと帰っ
 ていったのでした。

なる慈悲心（慈しみ恵む
 心）は、何事にも動じる
 ことのない堅固なもので
 あり、さらには悪心の炎
 を打ち消すような清浄
 なものとして成道（完
 成）していったのです。

修行の道を知ることにな
 るのだろう）
 これは、お釈迦様が前
 世で雪山童子という名で
 修行していたときの故事
 を思つて詠んだ歌です。
 遙か昔に過ぎ去つた出来
 事だからこそ、お釈迦様
 の「恩徳の名残」を探し
 求めてしまふのでしょう
 か。道なき雪の中を突き
 進まれた仏さまの足跡を
 慕いつつ、そこに自分の
 足跡を重ねて行ければと
 思います。
 （栃木北部教区普濟寺）

『今昔物語集』巻二）
 魔王の悪心（敵意）は、
 嫉妬や闘争といった「修
 羅心」を引き起こしたの
 でしょう。せつかく父親
 思いの息子が忠告したに
 もかわらず、悪を作つ
 ては苦を受けるという
 「悪因悪果」（悪い原因
 には悪い結果が伴うこ
 と）の悪行に走つて行つ
 てしまいました。
 ただ、自分の利益だけ
 を望んだ「魔王」にとつて
 の方便（策略）も、お
 釈迦様には通用しません
 でした。お釈迦様の大きい

南大沢交通安全協会主催
安全祈願祭 修
 於・山麓自動車祈祷殿

参列された協会員の皆様と共に
 事故ゼロを願い祈りが捧げられた

いけばなの心⑩

華道教授 佐藤 宗明

今年には紅葉の当たり年だったでしょう。とても美しい紅葉を見ることができました。ただ今年はこのコロナ禍の中、ゆっくりと紅葉狩りに行つてくる、というのはなかなか難しい方も多かったのではないのでしょうか。

池坊には古くから伝わる伝書に『専応口伝』というものがあります。その冒頭には『いけばなは少しの水と枝で壮大な景観を表現し、刻々と変化する自然の変化をも感じさせる素晴らしい技術だ。』と言った事が記述されています。

素晴らしい景色があるところがあつても、行こうと思つても行けない、こんな時こそ心安らぐ、いけばなの作品にふれる機会を持つて頂ければ幸いです。

この作品は秋〜冬、多くの草木が枯れている湖畔に一輪だけ見つけた希望の花、といった秀麗な表現した作品です。メイとなる草木は一輪だけ



花材：ラン、アンペラライ（ネビキグサ）
ジャングルブツシュ

で、他の花材はその輝きをより際立たせる為のものになります。

毎月作品をご覧いただき、ありがとうございます。来年も一瓶の上にも広がる草木の生命感、自然の景観美を感じて頂ける作品をお届けしたいと思います。皆様良いお年をお迎えください。

奉納御礼

天狗の落とし文碑建立

十月三十一日、八王子市にお住いの増田禎司様より御奉納頂きました、「天狗の落とし文碑」の開眼法要が、高尾山上有喜苑にて菅谷執事長御導師のもと執り行われました。

この落とし文碑建立のきっかけは、増田様が菅谷執事長に、
粹な高尾の僧正さんは衆生行く道都々逸で

という白製の都々逸を披露したことにあります。それを契機として菅谷執事長が都々逸を詠まれ、仏様の教えを込めた頭文字が「いろは順」となる四十八首いろは四十七文字に「ん」を加えた「都々逸」を作られました。その後、更に同様の形式で四十八首を作られ、九十六首となりました。

増田様は八王子の地元講中である、高尾山有喜講の副講元を務めておられるなど、長年に渡り高尾山と御縁を結んでこられたことを記念して、今回「いろは」の都々逸を菅谷執事長が書いた書を元に、四十八首が彫られた二基の碑を建立して御奉納頂きました。



開眼法要を行う菅谷執事長



挨拶をする増田様



琵琶滝(左)と蛇滝(右)で行われた閉瀑式

閉瀑式厳修

十月三十一日(土)

高尾山には、蛇滝及び琵琶滝という滝行を行う水行道場があり、毎年十月三十一日には両道場において一年間安全に修行できたことを感謝する、閉瀑式が行われております。

七五三おめでとう



新井杏歌ちゃん



落合雄一郎君と稔一郎君



杉山華音ちゃん

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

12

明治大学博物館 外山 徹

七世源智4―天正の居開帳

元龜二年（二五七二）、北条氏と武田氏の間で和睦が成立した。永祿二年（二五六八）の武田信玄による駿河（静岡県）の戦線も遠く北上していった。

訪れた平穩

これまで見てきた通り、戦国時代においては高尾山最寄りに戦火が及ぶことも度々だった。寺伝にある永正元年（二五〇四）の大火による焼亡は、最寄りの柗田城落城と同年だけに、信憑性も感じられる。永祿四年（二五六二）には上杉謙信の関東進攻により、太田資正の軍勢が迫った。そして、永祿二年には武田信玄

ける」はあながち誇張でもない。江戸後期の地誌『新編武蔵風土記稿』（文政五年・一八二一）「多磨郡之部」成立）には寺宝の銅製釣燈炉に関する記事がある。

惣体堅固に造りたれば格好よりも重し。（中略）高さ一尺二寸余、径八寸ばかり。覆いに銘あり、その文に言う、武蔵国多西郡横山庄柗田郷高尾山有喜寺薬師堂、寄進奉る金燈炉、旦那刑部照房、于時元龜二年辛未七月十二日

「刑部照房」とは北条氏照の家臣野口照房のことである。「金燈炉」とあるが、青銅も鍍上がった直後は金色をしている。銘を記しているのは、この野口による燈炉寄進は史実として確実視される。元龜という年号から思い浮かぶものに、文化九年（一八二二）に再興された唐銅五重塔がある。この塔は、元龜元年に北条

氏康から寄進されたと称するもので、享保二年（一七一七）に倒壊した後、取り置いた残骸を寛政二年（一七九〇）に修復したというものである。氏康の寄進という由緒は、うがった見方をすれば当時「大造」な撞鐘・鳥居・燈籠の新規造立を禁ずる幕法に抵触しないための理由付けと解釈できなくもなく、倒壊から修復までの間が空きすぎているのも不自然である。しかし、氏康の寄進は後に塔基の銘にも刻まれるので、方便とばかりも言いがた

い。建立されたという元龜元年は氏康が没する前年という時期である。かつて、上杉謙信の来襲の前に高尾山に祈禱を依頼し、薬師堂修復料を寄進したことなどを思い返し、余命短きを悟った折の寄進と考えるとドラマチックではある。

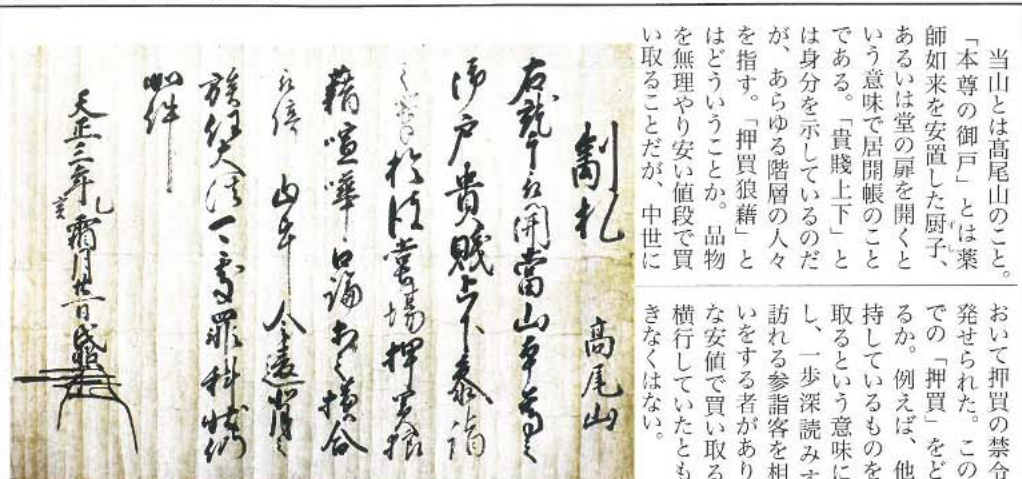
塔の建立が史実であるか否かは確認のしようもないが、野口による燈炉の寄進を考えれば、周辺の

が落ち着きを取り戻したその頃、北条氏から何がしか伽藍に彩りを加える寄進がなされたということとは不自然ではない。源實の勸進帳案に記されるような、高尾山繁栄の時代の到来があったのかもしれない。

氏照による制札発給

天正三年（二五七五）の十一月、北条氏照は高尾山に宛てて制札を発給した。

制札 高尾山 右当山本尊の御戸開かるについて、貴賤上下参詣の輩、かの堂場において押買狼藉・喧嘩口論などの横合い停止られおわんぬ。違背せしむの族、大法にまかせ罪科に処すべき状、よつて件のことし。
天正三年乙亥 霜月廿一日 氏照（花押）



戦国期の高尾山の様子が知れる貴重な資料 (写真提供: 八王子市郷土資料館)

「当山とは高尾山のこと。『本尊の御戸』とは薬師如来を安置した厨子、あるいは堂の扉を開くことという意味で居開帳のことである。「貴賤上下」とは身分を示しているのだが、あらゆる階層の人々を指す。「押買狼藉」とはどういうことか。品物を無理やり安い値段で買い取るのだが、中世に

において押買の禁令は度々発せられた。この開帳場での「押買」をどう考えるか。例えば、他人が所持しているものをせびり取るという意味にもなるし、一步深読みすれば、訪れる参詣客を相手に商いをする者があり、法外な安値で買い取ることが横行していたとも想像できなくはない。

制札 高尾山

右、就、右、開、當、山、本、尊、の、御、戸、開、か、る、に、つ、い、て、

貴、賤、上、下、を、参、詣、の、輩、に、お、い、て、

押、買、狼、藉、の、事、を、禁、ず、り、

喧、嘩、口、論、の、事、を、禁、ず、り、

横、合、い、の、事、を、禁、ず、り、

違、背、せ、し、む、の、族、に、大、法、に、

ま、か、せ、罪、科、に、処、す、べ、き、

状、を、よ、つ、て、件、の、事、と、

す。天正三年乙亥 霜月廿一日 氏照

「喧嘩口論」とは、人が閑散としたところでは起こりにくそうである。多くの人がごつた返す中、肩があたつたとか、睨みつけたといったような些細な理由でいさかいが起きることはある。それらの「横合い」すなわち不正行為に及んだ者は罪科に処するというのである。当時も開帳場となれば大勢の人々が賑わったのだろう。

この天正の居開帳に言及した後世の記事がある。それは、江戸中期に作成された、恐らく元文の江戸出開帳に先立ち作成されたと思われる記録で、それまでの開帳の実績が記されている。そこには天正四年開帳とある。氏照による御免という注記があるので、この制札を根拠としているのかもしれないが年が違ふ。考えてみれば十一月とは冬至の頃である。大勢の信徒にご本尊との結縁の機会を提供するという趣旨からすると、翌春の方が開

帳の時期としては好適だろう。そうすると、制札はあらかじめ発給されたものであり、文面は高尾山における開帳場の様子を記したのではないが、その当時、多くの人々を集める寺社境内においては、そのようなトラブルの発生することが珍しくはなかったであろう。どこからどのくらいの人々が訪れたのかは知る術もないが、戦国の世にあつても寺院で開帳がおこなわれることが知れ渡り、方々から人々が参拝に訪れるという光景のあつたことが思い浮かぶ。

七世源智遷化 一時の平穩を迎えた高尾山周辺に対し、諸国では未だ戦乱の絶えることはなかった。氏照も引き続き下野（栃木県）方面へ軍を進めていた。元龜四年（二五七二）、織田信長は対立の生じた将軍足利義昭を追放し、室町幕府は名実ともに滅亡した。天正と改元され

る同じ年、武田信玄が死去。今回の制札が発給された天正三年には、かの長篠の合戦が発生しており、長年にわたる北条氏の好敵手であった武田氏も以降衰勢に向かうことになる。北関東で抗争を繰り広げた上杉謙信もまた天正六年に世を去る。同じ頃、高尾山七世源智も最期の時を迎えていた。天保四年（二八三三）の「由緒書」は天正五年四月二二日を源智入寂の日としている。その直前の三月二日付で八世源實が後の九世源恵に宛てて印信（秘法伝授の証）を発給しているの、あるいはその死の直前には隠退していたのかもしれない。七世源智は謙信・信玄の侵攻という動乱の渦中に置かれるも、晩年は北条氏治政下にあり、繁栄の内に遷化の時を迎えたことになる。

おことわり 本連載では史料の引用について、読みやすく原文に手を加えています。

人の心ほど、あてにならないものは無いと、多くの人から聞き、また自分でも思う事が、度々あった。

世にある悲劇も喜劇も愛憎劇も、男と女の関係も、友情も、この人の心の移ろいの中にあつて、流転するのである。

歌謡曲の一節に「愛しても、愛しても、愛しきれない君だった」なんていうのがあるが、こんな文句は自分の気持ちの錯覚から来る一方的な、また一時的な自己陶醉の世界での言葉(歌詞)なのかも知れないし、亦、そう思つて生きる方が、生きやすいのかも知れない。お互いに愛し合い結ばれた二人が、ある時期を経て、別れて行く多くの光景を目の当たりに見たり聞いたりする時、愛とは



八王子市 澤田 守正

集英社の週刊誌・月刊誌編集長を経て同社取締役になった島地勝彦は、

男と女は
誤解して
愛し合い
理解して
別れる

滅除煩悩

心身の悩み事を除き去り、悟りに近づく

大山御貫首揮毫

など、色々な原因があつての結果であろうが、今まで築いてきたものが、ほんの些細な原因で崩れるもろさを、いつも潜在的に抱えながら、現実の人間関係は成り立っているのである。

それは綱渡りの芸にも似ている。

私も昨今は、人の気持ちが変わった事による別れならば、「人生そんなもんさ」と嘯いて、酒でも呑んで

人間は、すべて無常であること認めないから、執着するのでしょう。愛も無常であるならば、変わらぬ愛などある筈がないのです。

命も地位も、名誉も、金も、愛人も、無常と思わないからこそ、我々は目の色を変えて取りつき、それを離すまいと執着するのです。

この束縛から解き放たれること、これこそが悟りでしょう。

瀬戸内寂聴 「花に問え」より
合掌

と云う名言を放っている。実に言い得て妙、と云うところか・・・

人の心が移ろうことは、何も男と女の関係に限った事ではなく、友人関係や親子関係、親戚関係、あらゆる関係にあり得る事である。

人間の利害損得、心の移ろい、感情の行き違い

伊藤左千夫に、
人ごころ
或るはうつろふ
こともあると
危ぶむ口を
閉じて苦しも

という短歌があり、どの様な理由でこの歌を詠んだか解らないが、人の

寝てしまう方が、心に傷がつかない最良の方法だと考えられる様になった。

ここで瀬戸内寂聴の文章を書き添えておこう。

しかし、この境地に達するには、よほどの覚悟を持つた自分であらねばならないと思うが、努めてこの文章の真髓を大事にしたい。

高尾山 季節散歩

暦の言葉
「七十二候」
乃東生
「なつかれくさしようず」
十二月二十一日〜十二月二十五日頃
「乃東」とウツボグサという、シソ科植物の別名です。花の形が弓を入れる朝に似ることから、この名前があります。

様々な植物が枯れるこの時期に、ウツボグサは芽を吹き始め、夏至の頃に枯れます。

健康登山者投稿作品 季節の絵手紙「ヤマホトギス」

八王子市 梶谷玲子 様



八王子市 澤田 守正

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

九十五段 環境は自分の心の在り方により変わる

私達の周りで起きていることは、自分の心の動きと深く関係があります。日々の心の動きで選んだものが積み重なり、今の環境をかたち作ります。より良い環境を整えるために大事なことは、感情に流されず穏やかにすることです。

今月の風物詩 蜜柑

ミカンは冬の代表的な果物で、現代で単にミカンといえは、大抵の場合はウンシュウミカンという品種を指します。代表的な生産地は、和歌山県、愛媛県、静岡県などがあります。

現代では早生のミカンが九月頃から市場に出ておりますが、やはりミカンと言えは冬に炬燵で頂く印象が強いものです。

高尾山の昆虫

クロコノマチヨウ

タテハチヨウに分類されるジャノメチヨウの仲間には地味な種が多く、その中でもコノマチヨウは実に渋い存在です。

クロコノマチヨウ(黒木間蝶)は大型のジャノメチヨウですが、翅の表面の色は黒茶色で翅を閉じても枯れ葉のような色彩であり、林床に休んでいることが多いために付きづらいでしょ



例えばその姿を見つけても、蛾の仲間だと認識するのが一般的だと思います。

樹液にも集まり、カラフルなカナブンや勇ましいカブトやクワガタを尻目にじろじろといて、脇役を演じているような雰囲気があります。

ところが、早朝や夕方等の薄暗い状況では極めて活発に活動し、ヒカゲチヨウ(日陰蝶)に近いような生態であることも特徴です。

不思議なことに本種を見つけても、翅を閉じている状態ばかりで、飛んでも直ぐに翅を閉じてしまい翅の表面を頑なに隠せてくれません。

やつのことで撮れた翅の表面は、黒紫がかった格調高い色彩の先端に、明瞭な蛇の目模様が付いた秀逸なデザインでした。

(文 松島 孝 撮影 上村 雅昭)

観音菩薩の宗教

36

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

ターラー信仰のモンゴルへの弘まり (その1)

観音菩薩から生まれたとされるターラー菩薩は、インドに起源を持ち、チベットやモンゴル仏教圏で絶大な人気を誇った。その点で、多くの人がその名すら耳にしない日本などの漢字仏教圏とは大いに異なっている。ターラー菩薩の功徳を説いた『二十一ターラーへの讃』(以下、讃)は、サンスクリット語からチベット語訳され、またそこからモンゴル語訳されて、それらの地域におけるターラー信仰の主たる典拠となった。本稿ではこれまで十回にわたり、その和訳を試みてきた。『讃』には各派から注釈が書かれ、それらに記されたターラーの名称や図

像学的特色から二十一尊をワンセットとする、二十一ターラーの信仰や造像が発生した。『讃』および一六〇四年にチベットの学匠ターラーナタ(チベット名クンガニンポ)が著した『黄金の数珠』(拙稿「観音菩薩の宗教」参照)を要約・総括してみると、それが『法華経』『普門品』や『カーランダウィユール』に説かれた観音信仰(拙稿「観音菩薩の宗教」参照)と通底する思想・信仰を有していることが看取できる。すなわち、『讃』や『黄金の数珠』におけるターラー菩薩が種々の苦難から衆生を救済すること、その救済がターラーの名

を呼んだり呪を唱えたりすることによりかなえられること、ターラーには二十一のごとき多様な姿があることなどは、『観音経』における「念彼観音力」による「難一からの救い」や、『カーランダヴィユール』の「オーム・マニ・パドゥメー・フーム」を唱えることによる救い、同じく『観音経』の「応現」あるいは密教における「変化観音」と同様の思想である。これまで見てきた『讃』の二十一のターラーの衆生済度は、観音菩薩の功徳のアドプテーション(改作)と推測できる。両者の系統的関係を文献学的に証明するにはなお慎重を期するが、初期大乘経典に属する『法華経』や七世紀初頭までには成立したとされる『カーランダヴィユール』と、後続する密教経典の『讃』や『黄金の数珠』の思想の展開を時系列で論じることも可能ではなからうか。

チベットにおけるターラー信仰はすでに七世紀のソンツェンガンボ王のネパール人王妃ブリクテイ(Bhrikuti Chieftess)名ティツン(Khri btsun)がもたらしたものとされるが、それを興隆させ思想的に確立させたのはターラーナタによるところが大きい(拙稿「観音菩薩の宗教」)。ターラーナタは、チベット仏教の宗派のひとつであるチヨナン派(Choyon pa)の代表的な学匠で、多くの宗教書や歴史書を残した。チヨナン派は「他空説」と呼ばれる説を唱え、他の宗派と論争を繰り返したが、ターラーナタの没後、ゲルク派(dGe lugs)のトップであったダライ・ラマ五世によりすべてのチヨナン派僧院が閉鎖され、その書物も焼かれてしまった。一六一五年、ターラーナタによって建立されたタクテンダムチュリン寺(Tag bstan dam chos gling)もガンデンポンスツォクリン寺(dGa' Idan phun

stogs gling)と改称され、ゲルク派の寺院となった。一六三四年、およそ二〇年に亘りハルハ・モンゴル(北モンゴル)で布教中のターラーナタが遷化すると、チヨナン派は事実上、消滅し、その後のチベットではモンゴル西部 オイラト 族(Oyirad)のグーシ・ハーン(Gushi qaغان)一五八二(一六五五)の外護を受けたゲルク派が最大の勢力となった。のちに世界遺産となったポタラ宮を建てたのもダライ・ラマ五世である。ポタラとはサンスクリット語のポータラ(Potala)で、観音菩薩の浄土である南方の山をいう。観音菩薩の化身と信ぜられるダライ・ラマの住処兼政庁の名称となったのはそのためである。

ダライ・ラマ五世の政策によりチベットにおいてターラーナタの流派は途絶えたが、その命脈はモンゴルに移され、そこで開花した。その所以は

ターラーナタがモンゴル人のザナバザルに転生してモンゴル初の活仏となったからである。既述のごとく(拙稿「観音菩薩の宗教」)、ザナバザルは、ターラーナタが没した翌年の一六三五年、ハルハ・モンゴルの王家に生まれ、チベットに留学してゲルク派第二の活仏パンチェン・ラマなどに学んだ。それと同時にザナバザルは、ターラー信仰などチヨナン派のターラーナタの思想をも深く学んで、いた

(Wallace, Buddhism in Mongolian History, Culture, and Society, Oxford University Press, 2015)。一六五〇年、ダライ・ラマ五世は、そうした背景を有するザナバザルをターラーナタの転生者に認定し、ジェブツンダンバの名を与えた。「ジェブツン」(チベット語の発音で「ジュツン」)はチベット語で「聖なる」を意味し、もとはターラーナタの呼称であ

った。この語に「最高」を意味する「ダンバ」(チベット語の発音で「ダンパ」)を付けたのが、活仏としてのザナバザルの名跡である。この出来事で不可解なのは、チヨナン派を敵視し「圧殺せんとしたダライ・ラマ五世が、チヨナン派の流れを汲むザナバザルをターラーナタの転生者として認めたことである。さらにまた、ターラーナタはチヨナン派の大学者であり、その化身がモンゴルに降誕することは、チヨナン派がモンゴルで生き延びてしまうことになる。それではダライ・ラマ五世がチベットにおいてチヨナン派を禁圧した努力が水泡に帰してしまふ。ダライ・ラマ五世は、ザナバザルをゲルク派に改宗させたうえでターラーナタの転生者に認定したが、それによってザナバザルが名実ともにチヨナン派の思想を捨て去ったとはいえないであろう。

このことに関してゲルク派の信者だった二〇世紀初頭の歴史家ダヴガジャンツァン(Davqajantsan)は、ザナバザルがターラーに帰依したのはアティーシャ(Atisa 九八二―一〇五四)と初代ダライ・ラマのゲンドウン・ドゥブ(dGe' dun grub)一三九一―一四七五)やツォンカバ(Tsong kha pa 一三五七―一四一九)の思想に従ったためと述べている(Wallace, 前掲書)。アティーシャはインドからチベットに渡り顕密双修の仏教を伝えた大学匠で、この学統はチベットでカダム派となり、カダム派はやがてゲルク派に吸収・融合されていった。ツォンカバはチベット仏教最大の学匠で、アティーシャなどの思想を大成してゲルク派の開祖となった。ダヴガジャンツァンは、ザナバザ

ルの思想的根拠として、これらゲルク派系の師匠のみを賞揚しており、チヨナン派はもとよりターラーナタの影響には触れていない。そこにはダライ・ラマ五世以来のゲルク派の意図が反映していることも否定できない。ザナバザルのターラー信仰についてダヴガジャンツァンが述べるところを要約すると以下のとおりである。「アティーシャは常に緑ターラーに祈っていた。また、カダム派の諸経典が述べるところによれば、緑ターラーはアティーシャのすべての弟子を守り、カダム派にあらゆる成功をもたらすという。

だからこそアティーシャの弟子たちと導師ツォンカバの総ての弟子は最高神である緑ターラーを尊崇し、常に祈りを捧げているのだ。全知全能のゲンドウンドゥブ(初代ダライラマ)は彼の著作と業のために緑ターラーを尊崇していた。それにより彼の諸の業は宇宙の隅々まで達した。・・・それと同様に、一切済度者たるジェブツンダンバは緑ターラーの肖像と寺院をつくり、総ての著作において緑ターラーに祈りを捧げていた」(Wallace 前掲書)



一六三九年、ザナバザルがカラコルム東方のシレート・ツァガーン・ノールでモンゴルの貴族らによって活仏に推戴されたときの様子を伝える二〇世紀の木版画。 <https://artsandculture.google.com/asset/enhronement-of-the-first-bogd-jebtsundamba-zanabazar-an-anonymo-us-artist/-QGMZwd6rpRQ8A>

「吾郎さん、錢箱にこんなもの入れてはいけませんよ。八王子宿の薬屋で番頭をしている吾郎は、その日の売り上げを勘定していたご主人から呼ばれました。お客さんとの金のやり取りは自分に任されているので、何か落ち度があつたのかと思ひ急いで駆けつけると、お金に交じつて小さなどんぐりが五つ入っているのを見せられました。

「これは、どういふことですか。ご主人から問われても吾郎にはまったく身に覚えのないことです。お金とどんぐりを間違えるなんて考えられません。この薬屋が売る菅葉は、すり傷、切り傷、やけどとなんにでも効くと有名で甲州街道を下つて遠く新宿の方からお客さんが訪れるほどの店でした。

吾郎はその晩、寝床に入つてからも今日一日、どんなお客さんが来たか思い返してました。呉服屋の旦那さん、漬物屋の「稚さん、花街のおねえさん……二十人ほどいらしたでしょうか。顔見知りばかりでした。

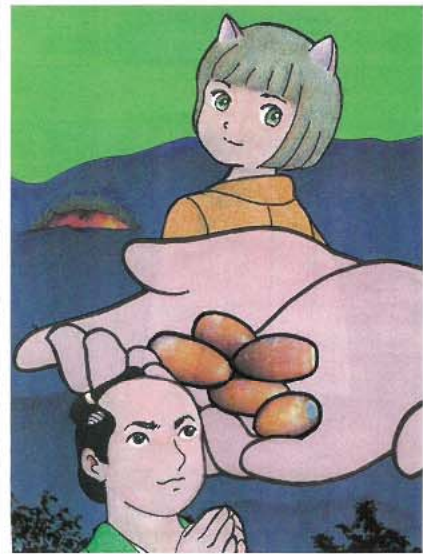
でもその中に今日初めて来たお客さんがいました。粗末な着物を着た女の子で、年は五つか六つぐらい。小さな手に五文のお金を握りしめて菅葉を買いに来たのです。訳を聞くと、「おっかさんが背中に大やけどをした」とのこと。不憫に思つた吾郎は、容れ物いっぱい軟膏を詰めて渡したのです。でも、あの子が持つていたのは間違ひなくお金です。「錢箱のどんぐりは、ご主人のお孫さんのいたずらに違ひない」。そう思

うことにしました。数日がたちました。この前の女の子が再び菅葉を買いにきたのです。吾郎が「おっかさんの具合はどうだい」と聞くと、「少しずつ良い」と言うので吾郎は安堵して葉を渡し、たしかりに五文のお金を受け取りました。

するとその晩、吾郎はご主人に呼ばれました。錢箱にどんぐりがまた入つていふのです。「お孫さんでは」と吾郎は言いかけてましたが、孫は母親と一緒に里帰りしていたのであつて言葉が飲み込みました。

その後、女の子は店にあらわれ、やはりその晩は、「どんぐりが入つていふ」とご主人から小言を言われるのです。「あの子が怪しいのかなあ」。しかし、店のお客さんに聞いても町の若い衆に聞いても女の子の素性はわからずじまいでした。

そんなころ、高尾と甲州の国境で大きな火事があり、かなりの山林が焼



けたという話を町の人から聞きました。吾郎はハツとしました。「もしかして、あの子は火事が起きた山に棲む獣ではないか。母親のやけどを治したくてどんぐりをお金に変えて買いに来たのではないか。だとしたら合点がいく」と。

吾郎は子が親を思う気持ちに涙ぐみました。店のご主人も「火事でつらい思いをしたのは人間だけではないものね」と言つて同情してくれました。

吾郎は夜が明けるのを待つて風呂敷に持てるだ

けの軟膏を包み、火事が起きたという山に向けて発ちました。日暮れ近くになつてようやくたどり着くと、火の勢いであらわになつた山肌が痛々しいほど迫ってきました。

吾郎は焼け落ちて屋根と柱だけになつてしまつた小屋を見つめました。そこに菅葉の包みを置き、「せめて雨露をしのぎ、一日でも早く傷をいやしてほしい」と手を合わせました。その日以来、女の子が店に来ることはなかったといふことです。

(挿し絵・小出 茂)

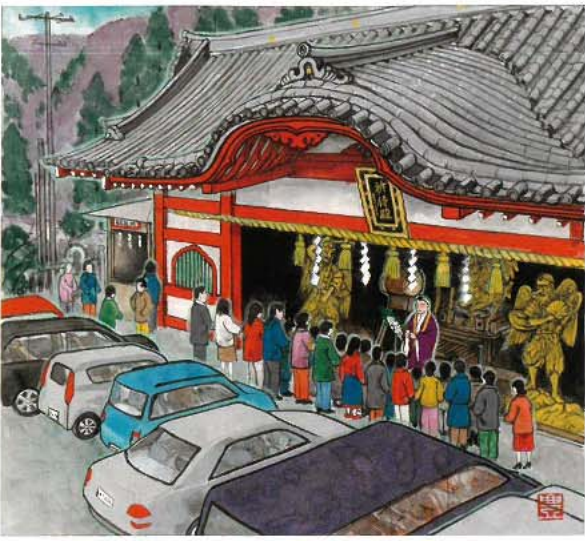
おはなし散歩道
どんぐり五つ

八王子市 池田美絵

高尾山麓を走る甲州街道(国道二十号線)沿いに、高尾山自動車祈禱殿があります。街道に沿つて案内川が流れ、この川には河鹿蛙が生息し、その蛙が美声で鳴く名所でもあります。

自動車祈禱殿

絵・橋本豊治



祈禱殿建立時の世相
昭和三十年代以降、個人所有の乗用車販売が増えると共に交通事故が増加し、事故による年間の死者数が一万人を超えるようになり、「交通戦争」と呼ばれる状況となつておりました。

苦難困難
負けずに耐えて
自力をつけて
起きあがれ

高尾山麓を走る甲州街道(国道二十号線)沿いに、高尾山自動車祈禱殿があります。街道に沿つて案内川が流れ、この川には河鹿蛙が生息し、その蛙が美声で鳴く名所でもあります。

祈禱殿は昭和四十三年の元旦に、山麓に初めは仮祈禱所として設けられ、「人車一体」となつての交通安全をモットーとして始まりました。

その後、昭和四十七年に本殿の工事が始まり、翌四十八年に現在に至る祈禱殿が建立されました。建立以来、祈禱殿では一年中交通安全祈禱が行われており、全国各地から大勢の方々が、安全無事故を願ひ祈禱に訪れておられます。交通安全の御札と共に授与される赤い紅葉のステッカーは、各地でよく見られます。

日本遺産認定記念
八振りの刀を御奉納頂く



八王子市の郷土刀である「下原刀」と伝わる刀も御奉納頂きました

八王子市内の天龍寺御住職にして、高尾山の執事長を務める菅谷秀文様より、八王子市が「靈氣満山 高尾山」として日本遺産に認定されたことを記念し、八振りの刀を御奉納頂きました。

八振りの刀の中には、美濃伝の流れを汲む「関(岐阜県関市)の刀や、江戸時代において古刀の再現を目指した「水心子正秀」の刀と共に、高尾山の地元である、八王子の郷土刀である「下原刀(室町時代末期から幕末期にかけて作られていた)」と伝わる一振りがあります。

いずれの刀にも、不動明王や俱利伽羅龍王などの仏様や、梵字が彫りこまれております。

今回御奉納頂きました刀は寺宝として、今後は高尾山にて未永く納められます。



■お問い合わせ先

電話 042-661-1115
FAX 042-664-1199
メール shinto@takaosan.or.jp

新たな年の安寧を祈る

正月限定 新春特別祈禱札

令和三年も正月期間（二月一日～一月三十一日）の限定で「令和新春特別祈禱札」を授与させていただきます。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発する時代でありました。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、薬王院におきましては種々の災いが少なくなるよう、また明るい社会を建設できますようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共に祈り下さいますようお願いいたします。

ご祈禱料は一律三萬円となります。

願意（お願い事）は「除災開運」のみと限らせていただきます。御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前でのお申し込みも頂きます。また、御信徒様各位の都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に郵送でのお取り扱いもいたしておりますので、ご希望の方は手紙・FAX・メールにてご連絡ください。

御守・縁起物

郵送申し込み方法について

当山では、新型コロナウイルスの影響などにより、高尾山へ御参拝出来ない方の為に、各種の御守や、正月限定の縁起物を郵送にて授与致しております。通常では、お申込みをお手紙やお電話などで受け付けておりますが、来たる令和三年のお正月を迎えるにあたり、お申込みを簡易にできるように、本号に御守の写真と番号を入れた「御守・縁起物一覧表」と「御守・縁起物申込用紙」を同封致しました。お申込み方法は、「御守・縁起物申込用紙」に郵送先住所・氏名・電話番号・御守り番号等の必要事項を記入の上、FAXもしくはお手紙にてお送りください。

尚、送料につきましては、お申込み頂きました御守や縁起物の量や大きさに応じて、三百円～千円別途申し受け致します。

- 15番 身体健全 五百円
- 18番 合格成就 六百円
- 26番 厄除け 五百円
- 27番 御守り 五百円
- 47番 破魔矢 大 千五百円
- 破魔矢 小 千円

※正月限定の縁起物（44番～50番）につきましては、数に限りがございますので、早めのお申し込みをお願い致します。



令和三年 正月期間御護摩修行の流れとお願い

大本山高尾山薬王院の感染防止対策について



【感染防止の基本】

- 大本堂、各部署は常時換気を徹底しています
- 人同士に一定の間隔を確保する為、定員及び間隔制限を実施します
- 境内各所は定期巡回をし、消毒を実施致します
- 消毒液の設置（手指の消毒にご協力をお願いします）

【大本堂内での対策】

- 靴袋をご持参下さい
- 堂内には入れるのは例年の半分の人数とさせていただきます
- 内陣参拝は行っておりません
- 堂内での私語はお控えください

【御護摩受付所・信徒休憩所】

- 三密防止の観点から、御護摩受付所への滞在時間を減らすため、高尾山報本号に同封の、「御護摩・御杉苗申込書」に事前に記入して御来山することをお勧め致します
- 御護摩受付所前には臨時の記入場所を設置致します
- 信徒休憩所は使用中と致します
- 御朱印及び健康登山押印は信徒休憩所に移動致します

【坊入りについて】

○ 例年、七日まで行っている新年の御挨拶（おとそ膳）を本年は中止と致します

※御参拝に際し、検温 マスク着用、消毒等感染予防を行い、体調に留意の上御来山下さい

※御参拝できない方には郵送にて、御護摩札、縁起物、御守り等を授与致します

御信徒の皆様にはご不便をお掛け致しますが、何卒御理解と御協力の程、宜しくお願い申し上げます

御質問等御座いましたら高尾山薬王院信徒部までご連絡をお願い致します

尚、今後の感染状況により、対策等が変更になる場合があります

高尾山薬王院信徒部 Tel.042-661-1115

※同封の申込書では最大10座分を申込みできます

| 御守り番号 | 御守り名 | 御守り料 | 申込数 | 在庫数 |
|-------|-------|------|-----|------|
| 15 | 身体健全 | 500 | 0 | 500 |
| 18 | 合格成就 | 600 | 0 | 600 |
| 26 | 厄除け | 500 | 0 | 500 |
| 27 | 御守り | 500 | 0 | 500 |
| 47 | 破魔矢 大 | 1500 | 0 | 1500 |
| 47 | 破魔矢 小 | 1000 | 0 | 1000 |
| 合計 | | | | |

令和三年 辛丑(かのとうし)
高尾山節分会追儺式参加申込の御案内



※令和三年の節分会は、新しい生活様式に即した内容にて実施を検討しており、詳細につきましては、来月号にてご紹介致します。

二月二日(火)

歳男・歳女 修行時間

| | |
|-----|-------|
| 第一回 | 午前九時 |
| 第二回 | 午前十時半 |
| 第三回 | 正午 |
| 第四回 | 午後一時半 |
| 第五回 | 午後二時半 |

尚、各修行時間の三十分前、または、定員になり次第締め切らせて頂き、次の回の修行に入つて頂きますので、ご了承ください。

高尾山恒例の節分会(豆まき式)が、二月二日、身上安全、除災開運、災厄消除、福寿円満等の祈願をこめて開催されます。

御信徒の皆様には、歳男・歳女に参加されますようおすすめいたします。

冥加料(祈禱料)三万円

お問い合わせ 高尾山節分会係
電話〇四二(六六一)一一一五

高尾山火渡り祭

柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内

當山では毎年三月第二日曜日に高尾山祈禱殿大広場にて、高尾山に春を招く恒例行事として、高尾山修験道による火渡り祭が、高尾山麓火渡り本尊ご寶前において盛大に執り行われます。

火渡り祭とは、高尾山主大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈禱法要であります。

この勝行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて使用される、御本尊・飯縄大権現様の功德を顕す御壇木のご志納を二本一万円にて募っております。

ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信授を賜りますよう、謹んで御壇木のご志納をお願いを申し上げる次第でございます。

尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院境内に二年間掲示させて頂き戴きます。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒課までお問い合わせ下さい。

電話 〇四二六六一二二五

大本山 高尾山 薬王院 信徒課

※今後、新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、火渡り祭の実施方法を、急遽変更とすることがありますことを、御承知おき下さいますよう、お願い申し上げます。



智山専修学院生
来山される

十月二十八日、真言宗智山派の僧侶育成機関である、智山専修学院より、十七名の修行僧と引率の本山僧侶二名の総勢十九名が参籠された。

一行は関東三大本山巡りの一環として、成田山新勝寺・川崎大師平間寺を参拝の後、高尾山へ来山された。

翌朝の大護摩供修行に参加して修行満足と学業成就を御祈念され、朝食の後、無事下山された。



宿坊となる大本坊前で記念撮影

迎光祭のお知らせ

令和三年の迎光祭につきましては、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から、例年のように高尾山の山頂で行うのではなく、薬王院の境内地に祈願所を設けて実施致します。

迎光祭とは薬王院の伝統的儀式を組み込んだ、初日の出を迎える行事で、僧侶の読経や山伏の法螺により一年間の安全を祈願して、新年を祝います。晴れていれば、横浜方面から昇る朝来光を拝することが出来ます。大晦日から元日にかけて終夜でケーブルカーの運行が行われます。

院内散歩

薬王院の展示物

46



版画 『うしろすがた』 作・秋山巖

高尾山報助成金志納者
御芳名(順不同・敬称略)

足利市 荻野 キヨ
前橋市 加藤 晴美
" 小池 武夫
邑楽郡 八山 光三郎
古川市 飯島 和子
富岡市 茂原 登
高崎市 植杉 晴夫
茅ヶ崎市 椎野 佳子
足立区 中山 恵司
深谷市 田中 佐智野
高座郡 石田 妙華
入間市 西村 千奈子
茅ヶ崎市 船戸 革治
比企郡 船戸 和則
板橋区 泉田 和則
" 泉田 豊子
武蔵野市 榎本 敏和
小平市 山田 眞久
秩父市 黒澤 茂
杉並区 三浦 みよ子
邑楽郡 井達 立司
比企郡 宮崎 甚三
熊谷市 大崎 エツ子
松本市 後藤 和一郎
久慈郡 早乙女 和江
相模原市 椎葉 ふみ子

八王子市 志茂 サト子
松本市 寺澤 和男
仙台市 本郷 則子
杉並区 木堂 啓司
秩父市 前原 豊作
秩父郡 町田 豊
八王子市 室岡 喜代二
町田市 坂口 安宏
立川市 長谷川 修康
熊谷市 根岸 裕基
八王子市 坂詰 とし子
武蔵野市 猪爪 一雄
世田谷区 善養 義三
杉並区 笹本 イツミ
武蔵野市 西浦 義三
秩父市 横田 一郎
桐生市 坂田 公子
塩尻市 澤田 武彦
台東区 山下 ヒデ子
大田区 田中 良典
国分寺市 新井 伊佐雄
小平市 関 道雄
春日井市 宮下 美世子
甲州市 中村 文雄
熊谷市 鈴木 栄次
相模原市 佐藤 久
札幌市 阿部 フミ子
川崎市 澤田 進
八王子市 池浦 國秋
横浜市 渡辺 和雄
深谷市 飯塚 登
熊谷市 大久保 智夫

本庄市 福田 一夫
邑楽郡 野村 耕一郎
羽生市 宮崎 幸子
八王子市 秋山 誠
飯能市 齊藤 光雄
国分寺市 福田 時子
本庄市 堀越 勝治
成田市 大慈 恩寺
茅野市 原 光男
宮古市 佐藤 昇
佐野市 荒居 幸子
秩父郡 茂木 吾郎
八王子市 橋本 祐一
鹿沼市 石川 謙一
立川市 古谷 幸子
東村山市 福島 光子
所沢市 三ツ橋 守
八王子市 森川 廣子
台東区 熊田 房子
相模原市 遠藤 恵子
世田谷区 高橋 享子
太田市 藤田 剛吉
比企郡 青木 宏
高崎市 萩原 始
札幌市 堀 千代子
八王子市 菅沼 幸子
葛飾区 高田 勝弘
草加市 富田 春江
加須市 野本 新蔵
小平市 荒井 和夫
八王子市 坂本 ミチ
秩父郡 朽原 利幸

北佐久郡 茂木 莊資
秩父市 井上 操
太田市 高田 エツ子
狭山市 岩崎 欽一
相模原市 山崎 千鶴子
熊谷市 江黒 忠雄
小平市 高杉 昭夫
相模原市 黒木 きよ子
八王子市 金子 喜美子
" 守屋 直
" 川村 正義
" 児島 イツエ
新座市 彰山 粧麗
秩父市 加藤 丈佳
相模原市 小山 剛広
加須市 坂本 隆志
西東京市 辰巳 精子
八王子市 萩原 一雄
さいたま市 洲崎 多恵子
相模原市 高麗 透
邑楽郡 大鷲 良雄
前橋市 木村 幸男
徳島市 齋中 益雄
日野市 諏訪 陽子
世田谷区 上田 浩憲
大和市 村山 穂巳
秩父郡 田中 則夫
足立区 中山 恵司
茅ヶ崎市 椎野 佳子
八王子市 菊地原 義明
板橋区 上野 モト子

羽生市 田中 横一
熊谷市 松岡 健次
藤岡市 折茂 サトエ
深谷市 木村 豊藤
千代田区 工藤 房太郎
相模原市 佐久間 宣行
高尾山健康登山者一同

訂正とお詫び

先月号の十三ページ「幸せな」と中の三段目七行目にあります、和歌の一部「まかないに」をまなかない」と訂正させて頂きます。

また、十七ページ「星まつり祈禱のおすすめ」下段の「年齢早見表」中の「九星」の位置に誤りがありました。

正しくは「羅喉星を六白」、「土曜星を七赤」、「水曜星を八白」、「金曜星を九紫」、「日曜星を二白」、「火曜星を二黒」、「計都星を三碧」、「月曜星を四緑」、「木曜星を五黄」と訂正させて頂きます。

茲に謹んでお詫び申し上げます。

お護摩修行のすすめ
皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。
お護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御木尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。
御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。
大切にお持ち帰り頂き、お供物と共に自宅等に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。



郵送御護摩
申し込み受付について
当山では、お護摩修行に参加できない方の為に、御護摩札の郵送をお受けしております。
お手紙やFAX、インターネット等でお申し込みをお願いしておりますが、本号に同封致しました、郵便振替「払込取扱票」を利用してのお申込みいただけます。よう便宜を取り計らいましたので、是非ご利用頂きますようお願い致します。

御護摩奉修時間
十一月一日〜四月十四日まで
午前六時 九時半
午後十一時 二時半
午後十二時半 三時半

※一月中の御護摩時間につきましてはは二十ページの「新春大護摩奉修特別時間」を、確認下さい。

高尾山のお護摩札とお供物

交通安全 (ステッカー) (車内用札) 最大巾12.5cm
家内安全 高尾八郎殿 最大巾18.0cm 高さ33.5cm
家内安全 高尾次郎殿 最大巾8.5cm 高さ37.7cm
家内安全 高尾三郎殿 最大巾9.5cm 高さ42.5cm
特別大護摩 高尾五郎殿 最大巾12.0cm 高さ48.5cm
開帳大護摩 高尾八郎殿 最大巾17.0cm 高さ54.5cm
特別開帳大護摩 最大巾14.3cm 高さ60.5cm

お護摩 3,000円以上
お護摩 5,000円以上
お護摩 10,000円以上
特別大護摩 30,000円以上
開帳大護摩 50,000円以上
特別開帳大護摩 100,000円以上

お護摩の願事
お願いは「心願成就」
併願(二願)は二万円より受け賜ります。
但し、五千円で家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。
お護摩札には年令・生年月日等は入りません。

奉納杉苗(杉)
御札(札)
心願成就(心)
入学成就(入)
安産成就(安)
良縁成就(縁)
開運(開)
当病平癒(病)
身体健全(体)
厄除(厄)
災難消除(災)
身上安全(身)
交通安全(不送)
交通安全(車送)
事業繁昌(事)
商業繁昌(商)
家内安全(家)



一月行事日程

- 一日 迎光祭
- 元旦 特別開帳大護摩供
- 二日～七日 聖天秘供(聖天堂)
- 九日、二十一日 弁天様御縁日
- 八日 仏舍利詣り(仏舍利塔)
- 十七日 蛇滝清龍様御縁日
- 二十八日 琵琶滝不動尊御縁日
- 奥の院開扉供養 (十時奥之院)

初詣 心のふるさと
祈りのお山 **高尾山**

- 二十一日 飯縄様御縁日
 - 神徳報謝百味飲食供 (九時大本堂)
 - 三十一日 高尾山とんとんむかし「語り部の会」 (十二時半山麓不動院)
- ★お知らせ
一月中の月例写経会は行われません。



【お願い】

お正月三ヶ日は、高尾山麓をはしる国道二十号線は大混雑が予想されます。マイカーでの御参拝はご遠慮ください。
大晦日は、JR線、京王線、ケーブルカー等は終夜運転します。

—新春大護摩奉修特別時間—

| | 元旦 (金) | 2・3日 (土)・(日) | 4～8日 (月)～(金) | 9～11日 16・17・24日 (土曜・日曜・祭日) | 12～15日 (火)～(金) | 18日以降 (土曜・平日) | 31日 (日) |
|---|-----------|-----------------|-----------------|----------------------------------|-------------------|------------------|------------|
| 午 | 0:00 | | | | | | |
| | 1:30 | | | | | | |
| | 3:00 | | | | | | |
| | 4:30 | | | | | | |
| | 6:00 | 6:00 | 6:00 | 6:00 | 6:00 | 6:00 | 6:00 |
| | 7:30 | 7:00 | | | | | |
| 前 | | 8:00 | | 8:00 | | | |
| | 9:00 | 9:00 | 9:00 | 9:00 | 9:00 | 9:30 | 9:00 |
| | 10:00 | 10:00 | 10:00 | 10:00 | 10:00 | | 10:00 |
| | 11:00 | 11:00 | 11:00 | 11:00 | 11:00 | 11:00 | 11:00 |
| 午 | 0:00 | 0:00 | 0:00 | 0:00 | 0:00 | 0:30 | 0:30 |
| | 1:00 | 1:00 | 1:00 | 1:00 | 1:00 | | |
| | 2:00 | 2:00 | 2:00 | 2:00 | 2:00 | 2:00 | 2:00 |
| | 3:00 | 3:00 | 3:30 | 3:30 | 3:30 | 3:30 | 3:30 |
| | 4:30 | 4:00 | | | | | |

★正月期間中は御護摩受付所や大本堂において、御護摩修行参加の為、大変混雑致します。
例年に比べて、御護摩修行の回数を増やしておりますが、お昼前後の回には大勢の御信徒様が集中することが予想されますので、密集を避けるためにも、時間を調整しての御来山をお勧めいたします。

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷 秀文
編集人 渋谷 秀芳
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円

高尾山薬王院ホームページ
http://www.takaosan.or.jp

…人車一体交通安全祈禱… 於 高尾山麓 交通安全祈禱殿

元旦は午前0時より、2日から3日までは午前8時より、4日から7日までは午前8時30分より、8日以降は午前9時より午後4時まで。尚、感染症予防対策のため、休憩室の利用をお控え頂いております。申込書の記入は車中にてお願い致します。
複数台お申し込みの場合は、事前にFAXも受け付けております。
何卒ご理解の程、宜しくお願い致します。

FAX 042-662-2135 電話 042-661-1118